

「ラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2025年2月4日放送分・塩竈街道／今市】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱=辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 東番丁からスタートしたシリーズも、今月が最終回です。原町から東に接続する塩竈街道を、東へ東へ歩いてきました。利府町との境に近いJR岩切駅の近くに、城下町から最も遠い辻標「塩竈街道／今市」があります。
- そもそも、岩切周辺も遺跡の宝庫です。岩切駅の北側に広がる洞ノ口遺跡は、中世この地を治めた留守氏の居館を中心とした遺跡です。堀や土壘などの構造物、土器、陶器、金属製品なども多く出土しています。

- 道標「塩竈街道／今市」は、七北田川にかかる今市橋たもとにあります。七北田川の水運は古代から利用されて来ましたが、ずっと北の七ヶ浜で海に注いでいたものを江戸時代になって現在の蒲生に注ぐよう付け替えました。物資の搬入がいっそう盛んになり、岩切は宿場町として整備され、近辺には新しい市場＝今市が立つこととなりました。
- 道標からすぐ北側の「東光寺」も、重要な史跡です。裏山には、崖を削って仏像を刻んだ石窟仏が数多く確認され、鎌倉～室町時代にかけての供養碑である板碑も、百数十基見られます。東光寺を取り囲む山全体が、大規模な靈場といった趣です。少し足を延ばせば留守氏の山城である国史跡「岩切城」もあり、歴史散策にはもってこいの岩切地区なのでした。

〈文・佐々木淳吾〉

